

▼ 理工系女子応援プロジェクト
ウェブサイト「わたしのあした」リニューアル



女子中高生の理工系分野への進路選択を応援する、日立財団の理工系女子応援サイト「わたしのあした」をリニューアルしました。サイト全体のデザインを一新したほか、絶賛連載中の「パイオニアトーク」「イベント情報」に加えて、これまで掲載していたコラムやインタビュー記事を新コーナー「リケパス」として新しくスタートしました。



リケパスとは「理工系のみち=Path(パス)」の略で、今リケパスにはどんな道があって、どんな未来につながっているのか?を皆さんと一緒に考えるコーナーです。今回のリニューアルを記念した最新記事では、今まさにリケパスを歩んでいる社会人3年目の中島ミホさんのお話を紹介しています。

●「わたしのあした」はこちらから。ぜひご覧ください。
<http://www.hitachi-zaidan.org/my-tomorrow/>

下期イベントカレンダー (2018年10月1日～2019年3月31日)

日程	領域	事業	内容
10月 2日	人づくり	日立みらいイノベータープログラム	出張授業 2回目実施(於 中野区立緑野小学校)
10月 13日	地域コミュニティ支援	社会をみつめるシンポジウム	「少子化時代を生き抜くために～こどもが幸せになる子育て孫育て～」(於 千代田区 日本工業倶楽部)
10月 18日	学術・科学技術の振興	高尾記念科学技術公開セミナー	第14回「モビリティ・イノベーション～自動運転が変える交通と物流」開催 講師:須田義大氏(於 千代田区 ワテラスコモンホール)
10月 26日	人づくり	日立みらいイノベータープログラム	出張授業 2回目実施(於 戸田市立新曽小学校)
10月 31日	学術・科学技術の振興	日立スカラシップ	2019年度「リサーチサポートプログラム」募集締め切り、選考開始
11月 6日	人づくり	日立みらいイノベータープログラム	出張授業 3回目実施(於 中野区立緑野小学校)
11月 16日	人づくり	日立みらいイノベータープログラム	出張授業 3回目実施(於 戸田市立新曽小学校)
11月 16日	人づくり	理工系女子応援プロジェクト	プロジェクトサイト「わたしのあした」リニューアル
11月 20日	人づくり	日立みらいイノベータープログラム	出張授業 2回目実施(於 日立市立河原子小学校)
12月 6日	地域コミュニティ支援	「大好きいばらき 作文コンクール」	第29回「大好きいばらき 作文コンクール」受賞式(於 水戸プラザホテル)
12月 16日	地域コミュニティ支援	地域子育て支援	家庭教育講演会「子どもたちの健やかな脳発達のために」(於 日立市 日立シビックセンター)
12月 17日	人づくり	日立みらいイノベータープログラム	出張授業 4回目実施(於 戸田市立新曽小学校)
12月 18日	人づくり	日立みらいイノベータープログラム	出張授業 4回目実施(於 中野区立緑野小学校)
1月 25日	人づくり	日立みらいイノベータープログラム	出張授業 3回目実施(於 日立市立河原子小学校)
2月 1日	学術・科学技術の振興	倉田奨励金	2018年度(第50回)倉田奨励金 受領者発表
2月 20日	人づくり	日立みらいイノベータープログラム	出張授業 4回目実施(於 日立市立河原子小学校)
3月 1日	学術・科学技術の振興	倉田奨励金	2018年度贈呈式 開催(於 経団連会館)
3月 4日	学術・科学技術の振興	日立スカラシップ	2019年度「リサーチサポートプログラム」選考委員会

編集後記

新年明けましておめでとうございます。編集スタッフ一同、心から新年のお祝いを申し上げます。これまでニュースレターは年2回発行でしたが、秋に多くのイベントがあるため、次の4月号まで待たずに、理事長ご挨拶とあわせて新年号を発行させていただきましたこととしました。今号は、参加者の皆様から高評価をいただきました、社会をみつめるシンポジウムと、最先端技術の第一人者である先生にわかりやすく講演していただいた、「高尾記念科学技術セミナー」をご紹介します。詳細は日立財団Webサイトの講演録をご覧ください。その他にも、日立みらいイノベータープログラム、作文コンクールの実施と、理工系女子応援Webサイトがリニューアルいたしましたので、こちらも是非ご覧ください。本年も引き続き、皆様に日立財団の活動に興味をもっていただけるように、より多くの報告をできればと思います。今年もよろしくお祈り申し上げます。

◎ 公益財団法人 日立財団

〒100-8220 千代田区丸の内一丁目6番1号 丸の内センタービル12階
TEL 03-5221-6675 FAX 03-5221-6680
E-mail: hitachizaidan@hdq.hitachi.co.jp

●日立財団のウェブサイト

<http://www.hitachi-zaidan.org>

発行日: 2019年1月1日発行
発行責任者: 床波 忠明 / 編集責任者: 山口 淳嗣 / 印刷: (株)クリエイターズギルド

NewsLetter

Vol.32 / 2019.1

日立財団では、年に3回、財団の活動情報を集めたニュースレターを発行しています。シンポジウム、セミナー、表彰式などの活動報告や、最新のトピックスなど、日立財団に関するさまざまなニュースをお届けいたします。ぜひご覧ください！

新年明けましておめでとうございます

2019年の年頭にあたり謹んで新春のお慶びを申し上げます

皆様におかれましては健康やかに新年をお迎えになられたことと存じます

さて 日立財団は2015年に5つの財団が合併し3年が経過いたしました

合併前の5つの財団は 設立当時の社会課題を解決するため

活動の分野ごとに財団が設立され 広く世の中のために事業活動を展開してまいりましたが

時代の変化や社会からの要請の変容に対応していくつかの事業を改変してまいりました

来年度もさらに事業の内容を向上させ 社会に貢献できるよう努力して参ります

日立財団はこれからも持続可能な開発目標(SDGs)やSociety 5.0で

掲げられている豊かな社会の実現に向け微力ながら

社会課題の解決のために尽力していきたくと思います

職員一同真摯に取り組んでまいりますので

変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます

今年一年の皆様のご発展とご健勝を

お祈り申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます



公益財団法人 日立財団

理事長 中川 史郎



地域コミュニティ支援

▼ 「大好きいばらき作文コンクール」授賞式を開催

日立財団は、「チャレンジ いばらき 県民運動」主催の「大好きいばらき 作文コンクール」を共催しています。

今回のテーマは、小・中学生を対象に、茨城県の豊かさや暮らしやすさ、伝統文化のすばらしさと、茨城の魅力を子どもたちに再認識することを目的に「私の大好きいばらき」と題し募集しました。県内から16,461点に上る応募があり、「知事賞」をはじめ当財団の「日立財団 小平記念賞」と「日立財団 奨励賞」を含む45点が入賞しました。

2018年12月6日に、茨城県水戸市の水戸プラザホテルにおいて授賞式が開催され、日立財団の床波常務理事から、「自分の考えたこと、感じたことを整理し、読む人に分かりやすく工夫して書くことは大いに力を伸ばします。書くことが好きになって下さい。社会に出てから色々なところで役に立ちます。」と祝辞があり、受賞者へ賞状が授与されました。



「日立財団 小平記念賞」受賞者の皆さん

●受賞作品は日立財団のホームページで2月下旬に公開予定です。是非ご覧ください。

地域コミュニティ支援

▼ 社会をみつめるシンポジウム 「少子化時代を生き抜くために ~こどもが幸せになる子育て孫育て~」を開催

2018年10月13日(土)、日本工業倶楽部(千代田区)において、社会をみつめるシンポジウム「少子化時代を生き抜くために~こどもが幸せになる子育て孫育て~」を開催しました。

少子化問題を解決するために私たちは何をすべきか、子どもの幸せのために何ができるのか今後必要とされるべき教育法をはじめ、子育て支援の方策、さらに子どもを幸福にするための制度や地域環境について、第一線で活躍されている有識者の方からお話を伺いました。



日立財団 田中理事長によるあいさつ

基調講演



「全米最優秀女子高校生を育てた教育法」

ライフコーチ

ボーク 重子 氏

第1部の基調講演は、「全米最優秀女子高校生を育てた教育法」と題し、ボーク重子氏に、幼児教育分野で注目されている非認知能力を取り入れた子育て法について提言いただきました。非認知能力とは、IQや偏差値では測れない、自尊心や忍耐力、社交性などの幅広い力のことで、自らお嬢さんの子育てに取り入れ、全米最優秀女子高校生に育てられたお話をうかがいました。



「日本の子どもは幸せか ~海外の子ども関連施策の動向~」

日本総合研究所
調査部 主任研究員

池本 美香 氏

日本総合研究所調査部 池本 美香氏からは、「日本の子どもは幸せか~海外の子ども関連施設の動向~」と題し、海外での調査経験をもとに、日本の子どもがおかれている現状と、子どもを「増やす」ためだけでなく「幸せにする」ための海外の取り組み事例に関して提案がありました。

いずれの講演も、少子化対策や子育てに関して気づきや発見が多く、子育て世代はもちろん、子育てを支援する周囲の人にも大変参考となる講演となりました。シンポジウムの講演録は、日立財団Webサイトで1月中旬公開予定です。



シンポジウム



「少子化時代における子育て支援の意義」

京都大学
大学院人間・環境学研究科 准教授

柴田 悠 氏

第2部のシンポジウムは、京都大学大学院人間・環境学研究科准教授 柴田悠氏より、「少子化時代における子育て支援の意義」と題し、少子化問題を解決するためには、労働時間の短縮・高等教育費の軽減・待機児童解消により、出産率を上昇させ、父親の育児参加で、母親のストレス減少と、こどもの引きこもりを予防できる等の提言を頂きました。



「未来のたまご育てプロジェクト ~笑っているシニアが社会をすくう~」

NPO法人ファザリング・ジャパン 理事
NPO法人孫育て・ニッポン 理事

村上 誠 氏

NPO法人ファザリング・ジャパン村上 誠氏より、「未来のたまご育てプロジェクト~笑っているシニアが社会をすくう~」と題し、一人っ子同士の結婚により、いとこ、叔父、叔母がいない子どもが増え、人と触れ合う時間が減少するため、「他育て・多育て」として地域社会が協力し子育てする時代であると提言されました。

学術・科学技術の振興

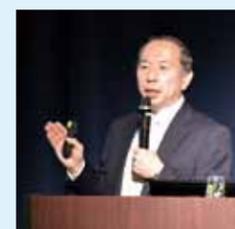
▼ 第14回高尾記念科学技術公開セミナー 「~モビリティ・イノベーション~自動運転が変える交通と物流」を開催



2018年11月18日(日)お茶の水のワテラスコモンホールにて、第14回高尾記念科学技術公開セミナーを開催しました。

今回は、須田義大氏(東京大学生産技術研究所教授、同 モビリティ・イノベーション連携研究機構長)を講師にむかえ、技術開発が進む「自動運転システム」をテーマにご講演いただきました。須田先生のご専門は車両制御力学で、鉄道や自動車などの交通システムのほか、人間工学・快適性評価など幅広い研究に従事されており、自動車・交通業界全般のキーマンとして、新聞やウェブサイト等のメディアでも多数解説をされています。

講演では、冒頭に自動運転技術などの進歩により、今世の中で何が起きているのか?自動車産業の変革とその歴史、国内外の技術開発の状況などのお話があり、続いて社会的背景、政府の取り組みについての説明がありました。そして、自動運転の基本的な考え方、



講師 須田 義大氏

指標となるレベルの説明や今後の進展のシナリオ、技術・システムなどについて詳しくふれられ、最後に、須田先生が考えておられるモビリティの未来のお話で講演のまとめとされました。自動運転の実現は、技術開発のみならず社会の受容性が大変重要であること、高齢化社会や物流の問題などの深刻な社会課題を救う技術になるであろうこと、さまざまな視点から、未来の交通社会についての理解を深めることが出来る講演でした。

須田先生が講演で触れられた自動車産業変革のキーワード

「CASE」と「MaaS」

CASE=
C onnected=繋がるクルマ
A utonomous=自動運転
S hare & S ervice=シェア・サービス
E lectric=電動化

MaaS=
M obility as a S ervice
(公共交通とのマージ)

●本セミナーの講演資料は財団ウェブサイトからダウンロードいただけます。ご興味のある方はぜひご覧ください。

<http://www.hitachi-zaidan.org/topics/topics058.html>



人づくり

▼ 日立みらいイノベータープログラム 児童が学校の課題解決案を発表



学校の課題解決案を発表する児童



アドバイスする講師(日立グループ社員)

日立みらいイノベータープログラムは、これからの理工系人材に求められる「問題発見・課題解決力」の育成をめざしたプロジェクト型探究学習です。学校の課題解決をテーマに、小学校5、6年生が約4ヵ月間プログラムに取り組み、期間中4回、日立グループ社員が講師となり出張授業を行います。

2018年11月、中野区立緑野小学校(東京都)と戸田市立新曾小学校(埼玉県)にて、第3回目の日立講師による出張授業を実施しました。この回は、児童が自分たちで考えた学校の課題解決案を提案する最終発表会に向けた、中間発表の場であり、講師からのアドバイスを受けて案を練り直すきっかけとなる、プログラムのメインイベントです。

未来を見据えた学びの創造に取り組んでいる緑野小学校では、児童たちから「教科書が重いので、タブレットPCを導入したい」「みんなの夢が広がるように、VR(仮想現実)を導入したい」など、デジタルを活用した創造性豊かな案が多く出ました。6年生が卒業プロジェクトとしてより良い学校づくりに取り組む新曾小学校では、「掃除の日を設立して、地球環境についての授業をしたい」「廊下を走らないように、効果的なポスターを作りたい」など、実現可能性を重視した身近で具体的な案が多く出ました。

講師は、これら案の実現をサポートするため、社会での事例を紹介しながら、足りない視点やもっと良くなる点についてアドバイスしました。授業後、児童たちは「自分のアイデアを実現するためには、説得する材料が必要だということがわかった、次回は説得できるようにがんばりたい」「メリット・デメリットを比較して、デメリットへの対策も考えたい」「もっと現状分析して、次回までに自分の立てた仮説を実践して検証したい」などの感想と最終発表に向けた意気込みを語ってくれました。